

フィリピン出張報告

吉川洋子

目的：5月大統領選挙への候補者選定と選挙運動に関する情報収集および意見交換

期間：2010年3月7日～3月17日（10日間）

以下に上記10日間の調査報告の概要をご報告いたします。

1 選挙管理委員会ならびに最高裁関係

7日午後到着後、すぐ選挙管理委員会へ出向き「外国人オブザーバー」の資格認定の手続きを行う。日本領事の endorsement letter が要件とされており、以前より厳しくなった。Letter 文案を作成し、在マニラ日本大使館の知り合いに依頼する。翌日 endorsement letter を持参提出するが、2日後に再度出向いてようやくIDパスの発行をうけられた。

IDパスを身につけて、別の建物の研究調査部門で今回の選挙のその時点での国政・地方全公職ポスト数や名簿式政党制（187）参加団体数に関する統計資料を入手した。具体的な国政候補者名リストはまだ未完成ということで、また地方選挙は候補者届け出締め切りが3月26日のため入手不可であった。ここでは統計研究部のスタッフに総計資料についての疑問に多く答えてもらった。

次にさらに別の建物の法律部門で選挙管理委員会による数々の決議ならびにこれに対する請願書、さらに選管による判決文書を入手した。最高裁判決まで及んだ請願のケースについては後日、最高裁の図書館において関連資料を入手した。

なお今回の選挙は電子自動集計システム（PCOS）が導入されることが特徴のひとつである。法律部でそのサンプルを見たが、国政と地方選挙の同時施行制度であるため、投票用紙は17cm×70cmとこれまで以上に何倍も大きく、日程の都合から全候補者と名簿式団体のリスト（国政、地方選挙）が一部まだ確定していない段階で印刷されていた。

また選管の電子集計部を訪れて、スキャンマシンと投票箱、投票者への周知とアシスト、投票手続き上のボトルネックなどについてスタッフから情報をえた。投票の模擬練習は各地方で少人数の投票者で行われていたが、日程の制約から模擬演習を見聞する機会はなかった。

しかし私が投票者の長蛇の列ができるのではないかという質問に「当然それは予測している」との回答があった。選挙当日は、1時間から一部では5、6時間も有権者は待たされた。

2 フィリピン選挙改革研究所（I P E R）および Social Weather Stations

旧知の友人のフィリピン選挙改革研究所長 Ramon Casiple 氏を訪問した。目下、超多忙な人物で、研究所もかつてに比べてはるかに拡張されており、フィリピンにおける今回の選挙問題が注視的になってきたことを語っている。私の関心である5月大統領選挙の候補者選定の方法の疑問点（詳細は省略）、名簿式政党制の本来の目的からの逸脱、電子集計の結果、得票数増し不正にかわる新たな不正の可能性などについて、長時間にわたりフィリピン選挙改革はどうあるべきかを話しあい、たいへん有意義であった。

次にフィリピンでもっとも信頼のおける世論調査機関 Social Weather Stations においてこれまでの不足資料や新資料の入手を行った。候補者選定における世論調査の影響は大きい。

3 街頭における名簿式政党制参加団体の運動、イロイロ市における候補者の選挙運動演説会およびスポットインタビュー

選挙管理委員会の前で、名簿式政党制へ参加している左派労働団体が選挙演説していたので、その若いリーダーに対し、今回、左派名簿式政党選出下院議員2名がなんと大資本家のナショナリスト党から上院議員候補として出馬している点に関して、その背景と実情をただした（詳細は省略）。選挙演説の間を縫って、外国人の私に率直かつ熱心に答えてくれたのには感謝するとともに、やはりオープンなフィリピンであることに感じ入った。

週末にイロイロ市へ飛び、地元の有力政治一族 Gonzalez 父子の選挙演説会を観た。テレビ生放送され、一般有権者からのメールによる質問に答えるその王国ぶりを観察した。終了後、Gonzalez シニアにスポットインタビューした。今回の選挙では前閣僚の父親が市長に、若い息子が選挙区下院議員に立候補している。役割交代して四選禁止規定を超えるのである。これと同じようなことはどの政治家もしており、夫婦、兄弟、婚姻家族、親族で役割交代すれば禁止規定（下院と地方公職は四選禁止、上院は三選禁止）を乗り越えられるのである。世代交代の効用はあるものの、かえって政治一族がはびこる弊害を招いている。Gonzalez の選挙集会で司会者を務めた地方テレビキャスターと地方における選挙の実態について話合い、たいへん貴重な情報をえることができた。旧知のフィリピン大学ヴィサヤのメロイ・マブナイ教授がいろいろな人々（たとえば富豪ロペス一族や大学人）に会う機会を与えてくださった。さらにバラングイの末端では一般有権者がどのように候補者の後援会に組み入れられるのか、具体的な情報を得ることができた。

4 デラサール大学，アテネオ大学，フィリピン大学研究者との意見交換

デラサール大学の政党と選挙の研究者であり，かつリベラル党员でもある Julio Teehankee 教授と電話で意見交換した。目下，彼は多忙なため会うことはできなかった。また 87 年憲法の名簿式政党制の規定の提案者であった友人のデラサール大学名誉教授 Menuto Villacorta 氏とも本制度の意図と現状の逸脱について電話で話しあった。

アテネオ・デ・マニラ大学において旧知の Ronaldo Homes（デラサール大学教授ならびに世論調査 Pulse Asia 社長）ならびに Randy David（フィリピン大学教授，テレビキャスター）の選挙に関する講演が行われ，それぞれからよい知見をえることができた。さらにアテネオ大政治学部では，名簿式政党制政党 Akbayan の党员であり，選挙ガバナンスが専門の若手研究者 Joy Aceron 准教授との話しあいから，大統領候補者選定の事情や選挙運動方法について知見をえた。

さらに国防大学における幹部養成教育課程（National Defense College）の講演において Frank Sionil Jose 氏（ジャーナリスト，小説家，国家英雄）のフィリピン選挙と政治エリートに対する厳しい批判に接した。同氏とは個人的にも度々意見を交わした。

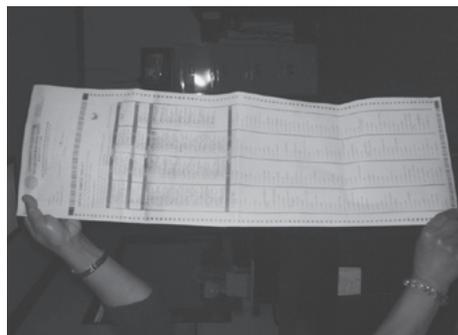
5 資料収集

滞在中の 10 日間は新聞雑誌の入手は元より，Solidaridad Book Shop に依頼していた過去の雑誌も入手，さらに限られた時間ではあったが，国会図書館で昨年度のものを一部読んだ。選挙後までの Philippine Daily Inquirer の購読を依頼し，アテネオ大学出版物，フィリピン大学出版物を入手した。

滞在中は，各党の正副大統領候補者ならびにその上院候補者（全国区 12 名）のほとんどがフィリピン全国を地方遊説にでており，マニラ首都圏には不在であったのは残念であった。しかし候補者選定または候補者出馬問題のテーマは今後も引き続き調査していく考えである。



イロイロ市での国政選挙候補者のビラ



電子集計用投票用紙